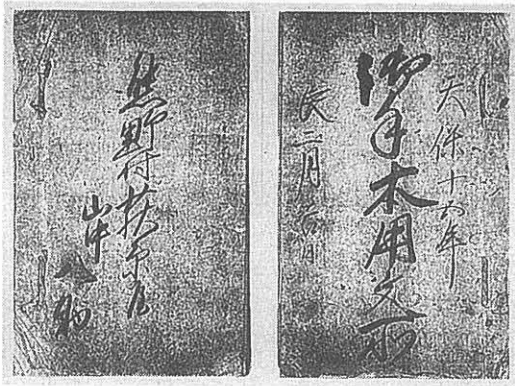


まことと熊野  
筆道資料の探訪

七筆会

▲江戸時代の手習本帳



筆の製法には、大別して練りませ法と益ませ法の二種類があります。

練りませ法では、一回の製造に百対(二百本)程度と作れる数量が少なく、主に高級な筆を製作するに適した方法です。

それに比べて、益ませ法では練りませ法の十倍もの製産が可能です。

この製法は、明治以降に熊野で発明されて熊野筆産業の進

展と共に定着した技術と考えられます。然し全国的生産地となつた熊野筆も、量産に依る安物との弊

害も多く指摘されました。この様な状況の中で、尺田徳太郎ほか相当の教育ある青年毛筆業者七人で、七筆会が組織発足して

います。この会は、熊野毛筆の改善を図ることを目的として事務所を神林堂に設置しました。

「熊野七筆会の実業家招待」七人の筆商青年が設立せる熊野七筆会にては昨年三月同地中溝に新聞雑誌縦覧所を開設し村民に新知識を得さしむる事とし他よりの補助をも得ず一に七青年が節約せる金を以て数種の新聞雑誌を取寄せ来りし処同所の成績良好にして既に一周年に達したるを以て本日四日同地神鳥若次郎氏

宅に於て熊野実業家招待会を開けりと云ふ因みに記す七筆会は熊野特産毛筆の改善を目的とせるものにて右招待会に於て各業者の意見を聞き毛筆製造上の研究に資し其改善を図り同業組合をして鞏固ならしめんことを期するに在りと

「芸備日日新聞」(明治四十二年三月七日)

熊野町史資料編

七筆会は、熊野特産毛筆の改善に尽した功績として、明治四十五年三月、安芸郡斯民会(会長古田頼己)より表彰されています。

大正四年には、熊野製産筆奨励会が発足、第一回毛筆品評会を開催、翌年八月五日に同奨励会による第二回品評会が開かれました。蛇足ながら大正十五年に設立された熊野町商工会の初代会長が、尺田徳太郎氏です。

(熊野町郷土史研究会)